

福祉文化通信

2020.9.15
Vol. 91

●発行／広報委員会
徳田 真彦・稲田 泰紀
●作成／長瀬 さやか

～ Well-being への道～

〒541-0047 大阪府大阪市中央区淡路町4-4-13 南星ビル701 Tel / Fax: 06-4963-3410 E-mail: fukushibunka@lagoon.ocn.ne.jp
ホームページ: http://fukushibunka.hippy.jp/

読谷村(よみたんそん)は、沖縄本島中部の中頭郡に属する村で、那覇市内からバスでおよそ1時間半の距離にある。日本の村では最も人口が多く、同村のホームページによれば、2020年7月末の時点で41,615人(18,778世帯)が読谷村で生活を営んでいる。読谷村には、世界遺産・琉球王国のグスク及び関連遺産群の1つである座喜味城跡をはじめ、残波岬灯台や喜名番所(写真)、チビチリガマ・シムクガマなど、人びとを強く引き付ける多様な魅力が数多く点在している。

その一方で、1945年の沖縄戦の際、読谷村は面積の95%を米軍に接収された歴史を持つ。1972年の本土復帰時には73%まで改善したが、現在でもトリー通信施設(写真)や嘉手納弾薬庫地区の一部が読谷村を占有し、村面積の36%が米軍基地である。私は本年3月末に実行委員長として、実行委員の岡村ヒロ子氏、月田みつえ氏とともに、沖縄側の実行委員である「沖縄福祉文化を考える会」のみなさんとの打ち合わせのために読谷村を訪れた。訪問前に実行委員長の佐久本真智子氏(沖縄福祉文化を考える会長)から「読谷村に近づきましたらバスからよく周りをご覧になってね」と熱いラブ



喜名番所

コール(恋)を受けた。これが読谷村の大きさに驚かざるを得なかった。さて、私たち、全国大会《沖縄》実行委員会は、沖縄の縮図と言えるこの読谷村の地で、第31回全国大会《沖縄》を11月28日(土)、29日(日)に開催すべく、これまで入念に準備を進めてきた。魅力は多様性にあり、一番ヶ瀬康子先生が創造された「福祉文化」もまた多様な切り口を持った概念である。本大会では、過去・現在・未来の時間軸から、歴史(戦争や基地問題)、文化(琉球文化・世界遺産)、経済(観光や人口)、生活(女性や地域)を捉え直し、これら沖縄の多様性を「福祉文化」でつなぐたいと考え、「福祉文化がなぐ、

沖縄の多様性(過去・現在・未来から考える)を大会テーマに据えた。基調講演には、対馬丸生還者の平良啓子氏を招聘し、対馬丸から奇跡的に生還した貴重な体験談を語って頂く予定である。続くシンポジウムでは、フリージャーナリストの山城紀子氏のコーディネートのもと、松田敬子氏、高里鈴代氏に大会テーマについてご報告頂くとともに、小生も末席を汚すことになっている。交流分科会では、今日的な課題である、子ども食堂と子ども居場所づくり、長寿社会と高齢者のいきがいに関するセッションが準備されている。

さらに全国大会が第30回を超えたことを記念して、一番ヶ瀬康子先生の「メモリアルセッション」を行う。「一番ヶ瀬康子先生の功績(思想、哲学、研究実践)やお人柄、楽しい思い出などを会員間で共有しつつ、先生が創造された「福祉文化」を今一度考える機会にしたい。そして、本学会の1つの特長である「現場セミナー」では、読谷村の魅力宝庫である座喜味城址、コンタンザミュージアム、チビチリガマ・シムクガマ、喜名番所、やちむんの里などを散策する予定である。一昨年度の大坂大会、昨年度の東海大会に決して見劣りしない、むしろ、両大会よりも豊かな内容であると、



トリー通信施設

実行委員一同、自信を持っている。しかし、このようななか、新型コロナウイルス感染症が全国で拡大し、その猛威が一向に弱体化しない状況から、私たち、全国大会《沖縄》実行委員会は11月末の開催中止を余儀なくされ、来年2月27日(土)と28日(日)に延期することをついに先日決定したばかりである。オンラインでの開催に切り替える他の学会が多いなか、全国大会《沖縄》は現地での開催に固執し、オンラインでの開催は絶対に行わない。それは、実行委員長の佐久本真智子氏をはじめとする沖縄福祉文化を考える会の総意であり、熱い「こだわり」である。読谷村に足を運ばなければ意味がない——ラブコールを受けて読谷村を訪れたからこそ、私はその意味を理解することができたと言えよう。

新型コロナウイルス感染症が沖縄でも猛威を振るいはじめた。来年2月に開催するかどうかは11月の時点で再び読谷村を訪れ、最終判断する予定である。オンラインでの開催はなく、さらなる延期もない。全国大会《沖縄》が幻の大会となるかどうかは神のみぞ知る。それでも私は「めんそーれ、読谷村」と言いたい!

OKINAWA 沖縄

第31回日本福祉文化学会全国大会《沖縄》 「めんそーれ、読谷村」と言いたい!

全国大会《沖縄》実行副委員長 小川雅司

第31回
日本福祉文化学会
全国大会《沖縄》
2021年
2月27日(土)
～28日(日)

実行委員一同、自信を持っている。

しかし、このようななか、新型コロナウイルス感染症が全国で拡大し、その猛威が一向に弱体化しない状況から、私たち、全国大会《沖縄》実行委員会は11月末の開催中止を余儀なくされ、来年2月27日(土)と28日(日)に延期することをついに先日決定したばかりである。オンラインでの開催に切り替える他の学会が多いなか、全国大会《沖縄》は現地での開催に固執し、オンラインでの開催は絶対に行わない。それは、実行委員長の佐久本真智子氏をはじめとする沖縄福祉文化を考える会の総意であり、熱い「こだわり」である。読谷村に足を運ばなければ意味がない——ラブコールを受けて読谷村を訪れたからこそ、私はその意味を理解することができたと言えよう。

山折り

2020年度予算書(案)、 2019年度収支決算書

事務局長
岡村 ヒロ子

2020年度予算書(案)は2019年度第3回理事会(2020年3月15日開催)で承認されました。11月28日開催予定の総会までは(案)の状態でご覧いただけます。なお、2019年度収支決算報告書は2020年度第1回理事会(2020年3月15日開催)で監査を受け承認されたことをここにご報告いたします。これらの件についてのお問い合わせは10月末日までに事務局までご連絡ください。詳細は、学会ホームページをご覧ください。

Zoom 理事会の開催

事務局長
佐野 光彦

コロナ禍の状況中、今年度の第1回理事会は2020年7月19日13:30～14名の参加をもって、本学会で初めての試みであるZoomにより開催された。事前に佐野・中西事務局長次長により、練習会も行われたので、当日はスムーズな議事進行をはかることができた。

事務局には、石田学会長、岡村事務局長がスタンバイし、各理事はそれぞれの場所から中継で参加した。平田理事には、急ぎ携帯電話で参加して頂いた。内容は、2019年度決算及び監査報告、ブロック活動及び委員会前期事業活動計画(新規及び変更)・前期事業報告、2021年度第32回全国大会開催地(京都)、福祉文化実践学会賞候補、福祉文化実践学会賞選考規定見直しが審議され、すべて承認された。さらに第8期評議員選挙結果、第31回全国大会《沖縄》の進捗状況、日本社会福祉系学会連合前期事業報告、会員状況などが報告された。次回理事会は、11月28日開催予定である。

このZoom形式による理事会では、遠方で参加できない、あるいは会場までの移動時間が取れない理事の皆様にも参加して頂くことが可能となった。今後、事務局としては、理事会に関して、会場でリアルに参加、Zoomによる遠隔参加など様々な形態で開催し、活発な議論の場としていきたい。



Zoom 理事会の様子

会員情報

- 2020年8月1日までに新規でご入会された方のお名前と所属ブロックをお知らせいたします。(敬称略)
〈個人会員〉宮田 恵美子、信岡 亨、六本木 麻奈(関東)、
チヨジョイン(九州)
- 2020年8月1日現在
(会員数)個人会員 225名 学生会員 10名
団体会員 4団体

計報 阿蘇 道子様(関東ブロック)
生前のご活躍を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします。

2020年度予算書(案)(2020年4月1日から2021年3月31日) (単位:円)

科目	2020年度予算	2019年度予算	差異	備考
1.会費	2,720,000	2,900,000	-180,000	
一般会員	2,500,000	2,600,000	-100,000	250人分
学生会員	80,000	100,000	-20,000	12人分
団体会員	160,000	200,000	-40,000	8団体
賛助会員	0	0	0	
2.書籍料	10,000	10,000	0	販売収入 差
3.寄付金	0	0	0	
4.雑収入	1,000	1,000	0	
5.前年度繰越金	1,314,055	1,181,561	132,494	
収入合計(A)	4,045,055	4,072,561	-27,506	

2020年度予算書(案)(2020年4月1日から2021年3月31日) (単位:円)

科目	2020年度予算	2019年度予算	差異	備考
1.事業費	1,850,000	1,550,000	300,000	
刊行費	550,000	550,000	0	通信(年3回)
大会	400,000	400,000	0	大会補助
委員会活動費	50,000	50,000	0	
地方ブロック活動費	450,000	450,000	0	1ブロックあたり(5万)×9ブロック
福祉文化実践学費	100,000	100,000	0	福祉文化実践学費
2.事務管理費	1,840,000	1,910,000	-70,000	
消耗品費	90,000	60,000	30,000	事務用品他
通信費	250,000	250,000	0	宅配便・郵便費・電話代他
印刷費	50,000	20,000	30,000	役員会資料・総会資料・会員向け資料印刷等
事務所備品	20,000	20,000	0	事務購入費用
書籍購入費	5,000	5,000	0	役員会・理事会・評議員会他
会議費	20,000	20,000	0	理事会・評議員会他
旅費	300,000	300,000	0	アルバイト代
人件費	300,000	300,000	0	アルバイト代
事務所維持費	420,000	420,000	0	家賃など(月3.5万)
ホームページ管理費	120,000	120,000	0	管理費・維持費・HP管理(1万)
選挙管理費	15,000	15,000	0	積立金(1.5万)
理事・事務局活動費	100,000	100,000	0	理事・事務局関係者活動費他
事務局長手当	240,000	240,000	0	
福祉関係者謝金負担費	30,000	30,000	0	学術委員負担(会員200名につき2万、定額負担1万)
雑費	10,000	10,000	0	振り込み手数料他
3.予備費	50,000	50,000	0	
4.支出小計	3,540,000	3,510,000	30,000	
5.前年度繰越金	505,055	562,561	-57,506	
支出合計(B)	4,045,055	4,072,561	-27,506	

2019年度収支決算報告書(2019年4月1日から2020年3月31日) (単位:円)

科目	2019年度決算	2019年度予算	差異	備考
1.会費	2,195,000	2,900,000	-705,000	
一般会員	2,050,000	2,600,000	-550,000	一般会員会費(190,000) / 前年度会費 30,000 / 次年度会費 30,000
学生会員	45,000	100,000	-55,000	学生会員会費 35,000 / 次年度学生会員 10,000
団体会員	100,000	200,000	-100,000	団体会員会費 100,000
賛助会員	0	0	0	
2.書籍料	12,500	10,000	2,500	
3.寄付金	10,152	10,152	0	
4.雑収入	382,831	1,000	381,831	大会余剰金返還 381,390
5.前年度繰越金	1,161,561	1,161,561	0	
収入合計(A)	3,742,044	4,072,561	-330,517	

2019年度収支決算報告書(2019年4月1日から2020年3月31日) (単位:円)

科目	2019年度決算	2019年度予算	差異	備考
1.事業費	1,287,883	1,550,000	-262,117	
刊行費	474,343	550,000	-75,657	研究誌、通信(年3回)
大会	400,000	400,000	0	
委員会活動費	0	50,000	-50,000	
地方ブロック活動費	330,000	450,000	-120,000	1ブロックあたり(5万)×9ブロック(活動計画未定で理事会で承認を得る)
福祉文化実践学費	63,240	100,000	-36,760	福祉文化実践学費
2.事務管理費	1,054,060	1,910,000	-855,940	
消耗品費	78,517	60,000	18,517	事務用品・消耗品印刷他
通信費	290,499	250,000	40,499	郵便費・電話代他
印刷費	19,401	20,000	-999	役員会資料・総会資料・会員向け資料印刷等
事務所備品	0	20,000	-20,000	事務購入費用
書籍購入費	0	5,000	-5,000	役員会・理事会
会議費	9,799	20,000	-10,201	役員会・理事会
旅費	109,288	300,000	-190,712	理事会・評議員会他
人件費	207,500	300,000	-92,500	アルバイト代(事務補助5万/月、その他)
事務所維持費	420,000	420,000	0	家賃など(13.5万/月)
ホームページ管理費	120,000	120,000	0	管理費・維持費・HP管理(1万/月)
選挙管理費	15,000	15,000	0	積立金15,000円
理事・事務局活動費	102,380	100,000	2,380	理事・事務局関係者活動費他
事務局長手当	240,000	240,000	0	
福祉関係者謝金負担費	30,000	30,000	0	学術委員負担(会員200名につき2万、定額負担1万)
雑費	11,676	10,000	1,676	振り込み手数料他
3.予備費	0	50,000	-50,000	
4.支出小計	2,921,643	3,510,000	-588,357	
5.繰越金	820,401	562,561	257,840	
支出合計(B)	3,742,044	4,072,561	-330,517	

種別	B+C+D+E					手持金	手合計
	A	B	C	D	E		
普通貯蓄							
振替口座							
手持現金							
次年度繰越金							
積立金関係	30,000	39,406	402,451	100,000	278,544	820,401	850,401

平成31年4月1日～令和2年3月31日迄の日本福祉文化学会の財務状況を監査し、承認と報告したところ正確であると認めます
会計監査(監事) 阿蘇 道子
会計監査(監事) 佐野 光彦

山折り

研究委員会承認済み『地域福祉の理論と方法』深読みプロジェクト

ご存知の通り 21 世紀の社会福祉は地域福祉にかわりました(2000 年社会福祉法)。「福祉＝地域福祉」です。厚労省モデルは共生型地域福祉でしたが、2015 年版社会福祉士養成教科書『地域福祉の理論と方法』(中央法規)は「共生型」ではなく、本当は「セキュリティ型地域福祉」だったそうです。それゆえ 2015 年度教科書は、地域福祉の歴史、課題、活動の内容が見事に一新され、これを学んだ学生は 2019 年より職場に送られています。

教科書の「戦後社会福祉からセキュリティ型地域福祉への転換」は初めて知る解釈です。どのような方がたかの理解が不明です。目立たない記述ですが、厚労省モデルを一蹴し、地域福祉のあり方に地殻変動を起こしています。福祉文化の「福祉」の激変ですから、遅まきながら「21 世紀福祉＝地域福祉」の起源を再点検するため 2019 年度研究委員会公認『『地域福祉の理論と方法』深読みプロジェクト』を立ち上げ月例研究会を重ねてきました。

今年度は、日常生活を揺るがしている新型コロナ禍を応用問題として追跡しています。感染防止対策の「深読み」と「新しい生活様式＝価値体系」の問題です。これをどう理解し、何が問われているか資料やレポートを材料に検討を進めています。コロナ問題は、どうやら福祉文化の深部にせまる論点になるようです。興味のある方は参加が可能です。

論文作成支援事業の試行開始 — 福祉文化アカデミア『福祉文化研究』編集委員会+倫理委員会 合同プロジェクト

『福祉文化研究』誌の投稿論文数を増やす、質の高い研究論文を増やす、この二つの課題を同時に達成するため論文作成支援事業を創設します。概要は以下の通りです。詳細は学会ホームページで募集要綱を参照ください。

論文作成支援事業の概要

1. 応募資格：査読済みの原著論文・研究ノート、投稿予定の原著論文・研究ノートのある方。本学会未加入の場合は入会が条件です。社会人、研究者も可。学歴は問わず。
2. 援助方法：①ゼミ方式（個別指導かグループ指導）②添削指導（年数回）
3. 開講時期：2 年間の限定試行。
4. 申し込み：事務局まで E メールで。原著論文・研究ノートを添付。
5. 助言・指導概要の説明、援助スタッフとの打ち合わせ、合意づくり。
6. 有料制
7. 申込先：福祉文化アカデミア事務局(当面、Eメールのみ)
 - 永山(なかやま) 誠(まこと) (makoto.n-1128@outlook.jp)
 - 中島(なかしま) 洋(ひろし) (中京大学、h-nakashima@sass.chukyo-u.ac.jp)
 付記：著作権保護、プライバシー保護のため受講者名等の公表はしない。

福祉文化ブックレット第 1 巻『私たちのメメント・モリ ～死を想う経験～』が出版されました。



8 月末に、福祉文化ブックレット第 1 巻『私たちのメメント・モリ～死を想う経験～』(日本福祉文化学会発行)が出版されました。このブックレットは、2017 年 2 月 18 日におこなわれた第 28 回日本福祉文化学会東京大会での上野千鶴子さんの特別講演「死にゆく者の自律」をきっかけにして生まれています。上野さんの特別講演のあと、関東では「わたしの最期を考える」研究会をたちあげ継続的に研究会をひろき、関西ブロックでも上野さんの講演をうけての研究会を開催して、東京大会での問題提起に応える試みを重ねてきました。

生まれる時も死ぬ時も人間はひとり。ひとりである自分が、どうやって自分の生と死を考えて、受け止めていくのか——。そんな課題について、10 人の執筆者たちがそれぞれの私的な体験に依拠しつつ、向き合って文章を編み出していきました。自らと死との間で生じてくる想いを綴ったブックレットを糸口にして、会員の皆様にも「わたしの死」や「わたしと死」について考えていただけたら、そんなにうれしいことはありません。

皆様にお手に取っていただき、できれば仲間内で一緒に語り合う機会をつくっていただきたいと考え、一般販売価格 800 円(税抜)のところ、学会員の方には特別価格 600 円(税込)+送料(4冊まではスマートレター使用で 180 円で郵送予定)で販売いたします。購入については、事務局まで「Eメール」にてお問い合わせ＆お申し込みください。

ブロック活動報告及び各種委員会、プロジェクト報告



2019 年度後期事業報告〈現場セミナー報告〉

2020 年 2 月 22 日～25 日にわたり「かまいしー おおさか交流 ボランティアパス 2020」として実施しました。

東日本大震災のあと、釜石市でパッチワーク教室を開催してきた長尾玲子会員(2019 年度福祉文化実践学会賞受賞)の活動を踏まえ、同市における被災者との交流および「春の落語会」の開催を行いました。

本事業は、ボランティアグループ「市民フォーラムおおさか」、一般社団法人「ボランティアセンター支援機構おおさか」との共催事業です。東日本大震災から 9 年を迎え、風化状態になることが懸念されますが、これまでボランティアとして大阪から支援活動を継続してきた方々を含め、22 人の参加がありました。

活動は、23 日に両石(りょういし)地区、平田(へいた)地区において、被災された皆さんと「たこ焼き」で交流をしました。大震災で家族を亡くしたり、家が流されたりの体験を通じて、力強く生きることの大切さを共有できました。そして最後には地元民謡で踊り出される場面があるなど、温かな交流をすることができました。

24 日午前は、伝承館見学。釜石市におけるこれまでの取組み(災害訓練)、震災後の取組みについて学習しました。午後は「春の落語会」。大阪から駆けつけた桂丸さんが「時うどん」「子は鏝(かすがい)」を熟演。約 60 人の参加がありました。ボランティアによるたこ焼きを参加者にお土産で持ち帰っていただきました。



たこ焼きを通して被災地と大阪の笑いある交流



福丸さんの熟演に会場は爆笑

コロナの時代の福祉文化

日本福祉文化学会 会長 石田 易司

コロナ禍での第 8 期・評議員選挙報告

評議員選挙管理委員会 委員長 空 千秋

今年の 4 月 4 日(土)に選挙管理委員会を開催し、その後事務局と打合せを重ね、6 月の選挙を無事に迎えることが出来ました。

6 月 25 日(土)午後からの本町の南星ビルでの開票作業では、立会人の藤岡純一先生のほか、事務局の岡村ヒロ子さん、中西久雄さんに手伝っていただき、77 名分の開票・集計作業を行いました。何度も票の読み合わせを重ね、集計作業が終わったのは夕方 5 時過ぎ、その後石田会長への報告書を作成し、6 時頃にはビルを退出することが出来ました。

例年に比べ投票率が 5%も UPしたのは、日頃の会員皆さまの意識と事務局の努力であったと感謝しております。選挙結果の速報については既に HP で掲載されていますが、全国的組織として各ブロックで活躍されている方々のお名前が多数見受けられ、今後の学会の運営が大いに期待されます。

- ◆有権者数 — 210 名 ◆投票者数 — 77 名
- ◆有効投票数 — 492 票 ◆無効投票数 — 47 票
- ◆投票率 — 36.67%

順位	氏名	得票数	順位	氏名	得票数
1	石田 易司	26	18	渡邊 豊	9
2	岡村 ヒロ子	25	19	石井パークマン麻子	8
3	馬場 清	24	20	雨宮 洋子	7
4	マーレー寛子	18	21	五十嵐 真一	7
5	稲田 泰紀	18	22	片山 千佳	7
6	佐野 光彦	17	23	塩田 公子	6
7	多田 千尋	15	24	山下一郎	6
8	安里 和子	13	25	所めぐみ	6
9	平田 厚	13	26	前嶋 元	6
10	小沼 肇	12	27	田島 栄文	6
11	島田 治子	11	28	福山 正和	6
12	西野 佳名子	10	29	久保美紀	5
13	中西 久雄	10	30	空閑 浩人	5
14	阿比留 久美	9	31	小河 佳子	5
15	園川 緑	9	32	小池 和幸	5
16	加藤 美枝	9	33	杉山 博昭	5
17	小坂 享子	9	34	藤原 慶二	5

※なお得票数が同じ場合には、抽選によって順位を決めている。

コロナの時代、納得できないことがたくさんある。ついつい怒りっぽくなっている自分がいて、自分でも驚いている。例えば、県境を越えての移動をするなどというのはどうしたことなのだろう。日常的に都道府県を超えて通勤、通学している人はいっぱいいる。県境に暮らして、生活圏が隣の県にある人もいるだろう。責任が知事にあるということがその理由らしいが、それなら、大阪のテレビで、知事同士が喧嘩し合っているように見える「関西」の感染者数の合計を毎日報告していることにはいったいどんな意味があるのだろうか。

その数も従来より増えると、検査数が増えたからと言う。異なる意味の数字を連続しているように発表して、その数を行動制限の指標にするのはおかしいではないか。

もっと納得できないのが新しい生活様式という奴である。食事はしゃべらずに横に並んで食べるという。何を食べても感染を押さえつけようとするのならそれもわからないではないが、Go to Eat だの Go to travel など、感染の抑制より経済活動を優先するそぶりも見せている人たちが言うのである。

ましてや食事の仕方というのは「文化」そのものである。それを医師や政治家が決めようというのは、封建時代や文明開化時代の話である。今、当事者主体の時代の話としては、パチンコ店やホストクラブを例に出すまでもなく、いろんな制限を「要請」といいながら、保証もしないで、それに従わない人には警官を動員して強制してくるという話もあって、そんな権威の押し付けは時代錯誤なんだと思う。

そんな怒りの中で思う。災害時の避難所が、コロナのおかげで空間やプライバシーが守られる場所になろうとしているように、私たちは、まさに「文化」として主張できるコロナの時代の「新しい生活様式」を考える「福祉文化」の人たちの集まりでありたい。福祉に身を置き文化を謳う私たちに「一人ひとりの尊厳を守る」という使命がある。